

留学生の世界を変えたいという熱意に押され、私のプロジェクトに対する意識も変わりました。
問題に向き合うことの大切さを学びました。

Global Village を体験した生徒のコメントより

GEP Quiz!

Question:

世界経済フォーラムが発表した“Global Gender Gap Report Index 2020” (世界ジェンダー・ギャップ指数)では、各国の男女格差を国別で測っています。

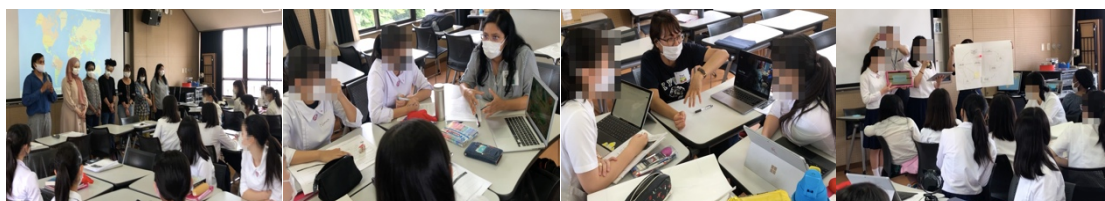
以下の国で最もランキングが高い(男女格差が少ない)のはどこでしょうか？

1. 日本
2. ドイツ
3. ルワンダ
4. エストニア

(答えは裏面に記載)

社会課題解決のための協働学習

日本で学ぶ留学生との協働型の学習機会を創り出す LbE Japan では、SDGs をはじめとするさまざまな社会課題を学ぶプログラムをご提供しています。新学習指導要領が掲げる「持続可能な社会の創り手の育成」において学校が独自に実施する探究学習の一環として、留学生と協働しながら多様な視点で課題解決に挑むプログラムです。今回はその一例として、奈良県の国際バカロレア (MYP) 候補校の女子中学校で実施した2日間のプログラムについてご紹介します。



誰かが決めた課題ではなく、自ら発見した課題として向き合う

同校は国際バカロレア (MYP) のカリキュラムの一環として、「コミュニティプロジェクト」という地域課題の解決に貢献する奉仕活動に取り組んでいます。留学生の多様な視点を借りて自分たちのプロジェクトにおける本質的な課題を見出し、また協働を通じて現実的かつ具体的な解決策を探る事を目的として、プログラムを実施しました。

まずはじめに、留学生が母国の社会課題に対する解決策について、その主体者として自身の考えを紹介しました。社会課題を自分ゴトとして捉え、自分の考えを述べる留学生の姿は、生徒たちのプロジェクトに対する意識や意欲を高め、また世界に存在するさまざまな社会課題に触れる機会となりました。

生徒たちのプロジェクトのテーマは、食品ロス、教育、環境、差別など多岐に渡ります。これらの複雑な課題は、表面に見えている現象に対して解決策を講じても、根本的な解決には繋がらないばかりか、状況を悪化させてしまうこともあります。今回は「システム思考」という手法を用いて、課題の根本的な原因が何かを理解し、解決策を見出すことに挑戦しました。

複雑な課題の全体像を捉え、問題の本質を見極める

GEP Quiz! 答え

Answer:

3. ルワンダ

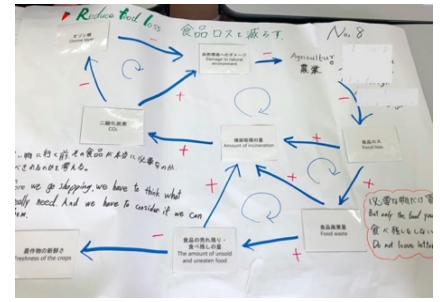
ルワンダが9位にランクインしており、選択肢の中で最も上位です。

いかがでしたか？

日本は121位。とても高い評価とは言えないランクです。

ルワンダでは虐殺をきっかけに改革をして、女性の議員数が6割を占めるようになりました。虐殺の経験から女性の社会進出に目を向けたルワンダの取り組みは興味深くないでしょうか？

右記の写真は、食品ロスをテーマに、現象同士（問題や影響）のつながりを可視化することで、問題の根本的な原因について考えたグループの活動の記録です。



当初このグループは、食品を売る側に着目して問題の原因とその解決策を考えていましたが、システム思考の手法を使って食品ロスにまつわる現象の全体像が見える化したことで、売る側よりも、買う側への働きかけの方が、プロジェクトとして自ら行動に起こしやすく、根本的な解決にも繋がるのではないかという気づきを得ました。そして、留学生の「日本に住む外国人」としての視点も取り入れながら、課題解決のための行動計画を立てました。

以下は実際にプログラムを体験した生徒によるコメントです。

- ◇ 留学生の母国の現状を聞いて、日本とは180°違う社会問題を抱えていて、知らないことがたくさんあり、もっと世界に目を向けないといけないと思いました。
- ◇ システム思考マップを作ったことで、今までのプロジェクトに加えた方が良かったことや、もっとこうしたら良いなと考えることができより良いプロジェクトができると思いました。

自分たちの日常に関わる身近な問題として、コミュニティプロジェクトに熱心に取り組む生徒の姿からは、全ての社会課題に共通する「誰かが必ず解決しなければならないもの」としてその課題に向き合う、主体者の意思が感じ取れました。

持続可能な社会と個人の幸福の実現を目指して

留学生はその多様な背景と経験を持って、また生徒の少し先を歩む先輩として、生徒の主体的に学ぼうとする姿勢を後押しします。目の前の留学生という「人」を通じた学びを糧に、地域から世界へと視野を広げて、自ら学び自ら考え、挑戦し、成長し続ける先に、輝く世界と未来を実現することを願っています。

この度は Newsletter 第17号を手にとりいただき、誠にありがとうございました。

これからも、日々増え続けている「学びの場面」の事例をピックアップしてご紹介させていただきます。

株式会社 LbE Japan (エルビージャパン) <http://www.lbejapan.co.jp> info@lbejapan.co.jp